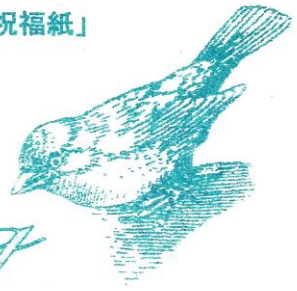




しゆくふく Blessing



2015年9月 No. 99

〒565-0824 吹田市山田西3-55-7 TEL 06-6875-0031

<http://www.senriseisanitsu.info/>

平和の祈り

主よ、わたしを平和の器とならせてください。

憎しみがあるところに愛を、
争いがあるところに赦しを、
分裂があるところに一致を、
疑いのあるところに信仰を、
誤りがあるところに真理を、
絶望があるところに希望を、
闇あるところに光を、
悲しみあるところに喜びを。



ああ、主よ、慰められるよりも慰める者としてください。
理解されるよりも理解する者に、
愛されるよりも愛する者に。
それは、わたしたちが、自ら与えることによって受け、
許すことによって赦され、
自分のからだをささげて死ぬことによって
とこしえの命を得ることができるからです。



アッシジのフランシスコ



「実に、キリストはわたしたちの平和であります。2つのものを1つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者をひとつの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」

(新約聖書、エフェソの信徒への手紙から)

表紙に引用したアッシジのフランシスコ、次ページに引用したシスター渡辺和子さん、渡辺さんが引用しているマザー・テレサの平和への思いには、共通のルーツがあります。それは、イエス・キリストです。

紀元1世紀、地中海を囲む広い地域はローマ帝国に征服され、戦争のない平和な時代を迎えました。「パックス・ロマーナ (ローマによる平和)」と呼ばれる時代です。しかしそれは、反対者や少数者を力で押さえ込むことによって維持される平和でした。帝国の支配者は、地域や民族内部の政治的・経済的格差を意図的に拡大し、差別と相互不信によって人々が分断される政策をとっていました。イエス・キリストはそのような時代に「汝の敵を愛しなさい」と教え、社会の周辺に追いやられていた人々の友となって、すべての人が等しく尊ばれる「神の国」の到来を説きました。その教えは当時の支配原理であった「差別と分断」を根底から覆すものでした。それゆえに、イエスは政治・宗教両面の支配者たちから警戒され、疎まれ、ついには無実の罪を着せられて十字架刑で殺されました。

そのイエスが復活し、神からのメシア (救い主) としての権威を帯びて弟子たちの前に現れたのです。それは、この世を支配する「力の論理」に対する「神の愛の論理」の勝利を示す出来事でした。イエスを十字架につけたこの世の原理 (差別、敵意、暴力) が反対に十字架につけて殺され、愛と信頼に基づく新しい共同体が生み出されていったのです。

現代のわたしたちが当たり前のように受け取っている「自由、平等、個人の尊厳」といった思想は、キリストの弟子たちがこの世界にもたらし、広めてきた教えに由来します。強大な権力が支配する世界にまかれた小さな小さな種が、長い時間をかけて成長し、実を結んできたものです。

人々を格差と不信によって分断し、支配し、そのことによって利益を得ようとする悪の力は今もこの世界に働いています。その力に取り込まれないよう、わたしたちは絶えず目を覚ましている必要があります。国籍や民族の違い、社会的な立場、経済格差、ことばや生活習慣の違いなどが人と人之間を隔てる「壁」として働く場合があるかもしれません。しかしキリストは、そのような「隔ての壁」を十字架において「破壊した」と宣言しています。人を分断する「壁」の支配に自分をゆだねてはならないのです。

戦後70年の今、改めて「平和をつくり出す」ことの大切さを心に留めたいものです。(千里聖三一教会牧師 金井由嗣)



『平和を唱えるだけでなく、生きる』

今年には戦後70年の節目の年、平和について考えさせられることが多くなりました。平和の実現のために一人一人が具体的にできることはなにか、静かに教えてくれる文章に出会いましたのでご紹介します。

N・M

平和は、考えるだけでいいのでしょうか。私たちに求められているのは、日々の生活の中で、平和を作り出す人になることではないかと思えます。聖書の中にも、平和を考える人は幸いとは書かれず、平和を実現する人は幸いと書かれています。

マザー・テレサがノーベル平和賞をお受けになった時に、人々がいいました。「なぜ、あなたのような有名な人が、インドの貧困をなくし、世界平和のために声を上げないのですか」

マザーは、こう答えておられます。「私には、偉大なことはできません。私にできることは、小さなことに、大きな愛をこめることなのです」

平和について議論することも大切です。国際間の紛争をやめさせることも大切です。しかし、私たち一人ひとりが日常生活の中でできることを疎かにし、いたずらに平和について考えていても、平和は実現しないでしょう。

家庭の中に笑顔、いたわり合い、許し合いがあるでしょうか。他人に迷惑をかけないことはもちろん、進んで困っている人、淋しい人に手を差し伸べて、相手を喜ばす努力をしているでしょうか。平和を考える会議も必要ですが、実行されているでしょうか。

平和を願う祈りを唱えることも大切ですが、より大切なのは、実行なのです。「信仰は持っているものではなく、生きるもの」でなければなりません。フランシスコの祈りのように、「憎しみのあるところに愛を、分裂のあるところに一致をもたらず平和の道具」となりたいものです。そのためには、主の十字架上の痛みをわが身に受けることによって、平和を生み出すことが求められています。

渡辺和子（ノートルダム清心学園理事長）著

「面倒だから、しよう」（幻冬舎）より引用



■定例集会（どなた様も自由にご参加ください）

●礼 拝

毎日曜日 午前 10:15～11:45

礼拝は教会生活の中心です。神様に生かされ愛されていることを感謝し、週の初めの日（日曜日）を聖日としています。礼拝においては神さまの存在を身近に感じ、聖書の言葉に養われます。

礼拝は、前奏、讃美歌、祈り、説教、献金（任意）、祝祷と続きます。

●教会学校

毎日曜日 午前 9:00～10:00

教会学校は、子どもたちが聖書を学び、神さまを礼拝する時間です。幼児から高校生まで年齢別のクラスがあります。山田こどもクリスマスと春の山田子どもイースターは恒例の行事になっています。

●聖書に学び、祈るとき

毎水曜日 午前 10:00～11:30

毎水曜日 午後 7:30～8:45

少人数で聖書や身近な信仰の読み物を学び、心を合わせて祈ります。

■交通案内

●阪急千里線「山田駅」下車徒歩約8分

●大阪モノレール「山田駅」下車徒歩約8分

「いかりスーパー」のそば

「王子池」南側の坂を上ったところ



教会学校生徒の作品をカットとして使用しました。